



## コロナワクチン

### オミクロン株対応に替わる！

新型コロナウイルス感染症の感染が確認されてから3年近く経過してしまいましたが、習志野市では次回の接種が3・4・5回目の人のワクチン接種は、10月1日からオミクロン株対応ワクチンに替わりました。詳しくは、広報習志野ワクチン特集号(2022. 10. 1)をご覧ください。

さて、習志野市議会は、2022年市議会第3回定例会が9月28日に閉会しましたが、審議の中で私、藤崎ちさこが討論した議案・議員発議案について、討論の内容をご紹介します。

#### ◎工事請負契約 7件のうち、2件について

- ・向山こども園建築工事

契約金額：6億9,089万円

契約の相手方：横芝光町

株式会社畔蒜工務店

- ・向山こども園機械設備工事

契約金額：2億1,087万円

契約の相手方：習志野市実籾

株式会社サクラ設備

#### 【反対】

(仮称)向山こども園は、園庭805.28㎡、面積の基準はクリアしているが、狭い。また、向山こども園の敷地の周りの交通は、十分に安全であるとは言えない。

幅の狭い道路、こども園の駐車場前は、園児の送り迎え時の混雑と危険性が心配だ。

そもそも、「習志野市におけるこども園構想」に問題は無かったのか？検証する必要があるだろう。

こども園構想によると、

#### 1. 保育一元化の基本的な考え方

- ・就学前の子どもが、より良い成長と発達を遂げるよう環境を整え、養護、保護、教育をすること
- ・集団生活を通して人間形成の基礎を培う保育
- ・市立保育所・幼稚園の枠を越え、「保育」を一元化するとともに子育て支援を同時に行う

#### 2. 保育施設の整備において

- ・本市は市域が狭いので、保育所・幼稚園の枠を越えて地域の実態に応じた乳幼児施設の再編・再整備を行う

つまり、「既存の土地・施設を利用すること」を基本としている。この、あくまで既存の場所にこだわることに問題がある。用地の確保が困難であることを理由としているが、昨今、幼い命が奪われる痛ましい、理不尽な事故が多発している。こども園園児のいのちの安全を第一とするこども園構想にすることは、本市の責務であるとする。

より安心安全なこども園を整備する必要があることから、反対とする。

◎市議会議員定数を 28 名に削減する議員  
発議案について  
【賛成】

習志野市議会の議員定数は、2002 年に 32 名から 30 名に削減されてから、既に 20 年経過している。この間定数削減について何度か議論を重ねてきた。

千葉県内の自治体の議員定数削減状況を見ると、2012 年から 2014 年にかけて 13 の市と町で、2 名から 4 名の削減が行われている。近隣では、千葉市、八千代市で定数削減が行われている。現在、流山市、八千代市、佐倉市、野田市、木更津市は定数 28 名である。

民主主義では、なるべく多くの人の意見を聞いてから政治や行政を行った方が良くとされているので、議員定数は減らすべきではないという意見もある。しかし、国民、市民の中で常に「議員定数を減らすべきだ。」というご意見があることは事実である。

それは、

- ・一部のみに「職責を全うしていない議員」がいる
- ・議員定数は議員が決めることができるので、定数削減に議員が取り組んでいないと人々が考えている

からであろう。

また、議員の汚職や不祥事が明るみに出ると、議員の数を減らした方が良いのではないか？という声が出る。

今、習志野市では「議員定数を減らすべき」という声が強く、市民のみなさんからの声は私の耳にも届いている。この声を無視することは「多くの人の意見を聞く」民主主義の基本をないがしろにするものと考えます。今こそ、習志野市議会の議員定数を 2 名削減して 28 名とする時期である。

以上の理由から、発議案に賛成とする。

袖ヶ浦団地

ふれあい夏まつり 2022 開催

袖ヶ浦団地自治会は、去る 9 月 25 日(日)、袖ヶ浦団地内の「船の公園」において「袖ヶ浦団地 ふれあい夏まつり 2022」を開催しました。コロナ禍の中、3 年ぶりのイベントということで、団地住民のみなさんは大変楽しみにしていただきました。



この夏まつりは、習志野市高齢者ふれあい元気事業の助成制度を利用し、袖ヶ浦団地地域において、元気な高齢者と地域住民との交流を深めることを目的として、当初 7 月に予定していましたが、コロナの感染状況を鑑み 9 月に延期し、ようやく開催することができたものです。

焼きそば・ソーセージ販売（持帰り）、駄菓子屋、子どもゲーム、フリーマーケット、自治会員向け抽選会など、団地住民と子どもたちで大変賑わいました。

コロナ以前には、毎年 8 月に盆踊り大会が盛大に催されていましたが、今回はコロナの感染防止のため、感染状況に気をつけながら今可能な方法での開催でしたので、規模の小さい夏まつりとなりました。コロナ以前の状態に戻ることが可能であるかどうかは不確かですが、少しずつ、手探り状態でも活動したいと、夏まつり実行委員会全員で頑張りました。